

此所三言ノ將來ノ考慮ヲ希フモノナリ

間宮製麵超設備一覽表

設備品名	個数	生産能力	記
電気麵超燒電	二		一個一四ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ
混粉機	一	四〇〇貫	一個一四ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ
他附屬用要具	一式		一個一四ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ 一個六五ノ燒上ノ量ニハ買入ノタメ

二 豆腐製造設備

豆腐製造設備ハ概略左表ノ通り人更四名ヲ使役シ一日ノ生産量約三
〇〇貫ニ及ビ聯合艦隊ニ對シテ一週ニ食分ヲ供給シ得ル能力ナリ
設備並場所共申分ナシ

間宮豆腐製造設備一覽表

設備品名	個数	生産能力	記
豆破砕機	三		動力式 作業極メテ能率的高ナリ
煮粉機			

水	槽	二	鉄製六角形
其他附属要具	一式		

三、葯製製造設備
 葯製製造設備ハ概略左表ノ通ニテ人夫四名(豆腐製造人夫ト兼務ヲ使役シ一日ノ生産量四〇〇貫ミテ聯合艦隊各艦ニ對シ週一食分供給ニ應ジテ充テリ

間宮葯製製造設備一覽表

設備品名	個數	生産能力 (月)	記
捏用桶	三		豆腐製造用桶ト兼用
煮湯用桶	二	四〇〇貫	石
捏機	一		麵麴製造用混粉機ヲ兼用シタルモノ成績頗ル良好ナリ
其他附属品	一式		

四、漬物製造設備

漬物製造設備ハ大桶(漬桶)ト重石トハ是ヲ以テ極メテ簡單ナリ元來第一種漬物ハ少シク貯藏長キニ及バ外觀及食味ヲ損シ嗜

好適當セザルニ至ルヲ以テ之ヲ貯藏保管ニ容積ノ大ナルヲ類ル苦心スル所ナリ冷蔵貯藏ハ機械設備ナクモ冷蔵庫容積ノ関係ヨリ見テ多クヲ望ムベカラズ艦内ニ於ケル漬物ノ製造ハ是等ノ欠陥ヲ補テ可成新鮮ニシテ艦隊乗員ノ嗜好ニ適スル漬物ヲ得ントスルノ外貯藏中ノ生野菜ノ新陳代謝ヲ計リ其ノ損壞ヲ少カラシメントスルニテ生野菜殊ニ漬物トシテ用ヒラルベシ葉野菜類ハ相當期間貯藏スル漸時品質ヲ低下シ最早生野菜トシテ供給スルニヨリ少少躊躇ハヤキ状態ニ至ルナリ漬物材料トシテハ斯レ如キ状態ヲモテテ何等支障ナシ新鮮良好ナル状態ヲ得ラルナリ故ニ斯レ状態ニテリタル生野菜ハ之ヲ漬物ニ利用シ新ニ良品ヲ補充ス即チ艦内ニ於ケル漬物ノ製造ハ直接ニ之ニヨリテ艦隊各艦ニ新漬物良品ヲ供給シ得ルト共ニ間接ニ生野菜ノ新陳代謝ヲ行テ得テ貯藏ニ裨益スルト共ニ生野菜ノ良品ヲ供給シ得ルコトナル所謂一舉兩得ノ方法ト云フベキナリ

間宮漬物製造設備一覽表

設備品名	個數	生産能力	記
漬物桶	五	二五〇貫	十五年六月設備
其他附屬要具	一式		

事

五、餛飩製造設備

現在、餛飩製造設備ハ左表ノ通ニテ極メテ旧式ナリ。勞力多クシテ生産之に伴ハ能率甚ク低シ。生産能力一日一二貫ニ過ラズ。

生餛飩ハ現在、規程ニ於テハ糧食品トシテ正式ニ支給ノ途ナレ。從來、間宮ニ於ケル製造ハ酒保ヲ通シテ嗜好品トシテ供給スルカ。若クハ各艦ニ於テ換給其他ニ急キ麦粉トシテ拂出タル麦粉ヲ以テ製造方申然タル場合便宜ニ之應ジタルモノナリ。從テ是カ整理ハ彼我共ニ甚シク面倒ナリ。生餛飩カ兵員一般ノ嗜好通スル事實ニテ。年度作業ノ勞力甚ク時期ニ折ラシテ給與スルコトハ彼等ヲ満足セシムルコト多カルベシ。故ニ之ヲ干餛飩、生乾麵起等ト換給シ得ル規程ヲ設テ糧食品トシテ給與シ得ル途ヲ開ク。一方嗜好品トシテ供給スルコトハ各種ノ事情ヲ考慮シ適切ナル方策ト信ス。尤モ現ニ下生麵起食ヲ奨勵シツル時ニ當リ之カ換給品ヲ多クスルコトハ其趣旨ニ及スル如ク一應應務セラルト。生餛飩ノ換給ハ實際ニ於テ各艦ノ自由ニ為シ得ハキモノナラズ。而モ換給ハ生麵起ヲ得ル場合ニ限り許サルコトモハ生麵起奨勵ノ趣旨ニ及ルコトナシ。間宮ノ生麵起製造設備ハ最近著シク増加セラレタリトスルモ現在、度々各月産四〇〇貫ヲ最大トシ聯合艦隊ニ對シ週二回分ヲ供給シ得ルニ至ラズ。生餛飩ヲ以テ此ノ不足ヲ補フコトハ兵員嗜好ノ良アリ又經費ノ莫ヨリ見テ有利ト思考スルカ現在、設備ハ前述ノ

如右開式ニテ總テノ具ニ於テ不經濟ナルヲ以テ是ヲ新式動力研製麵機ニ
換製スルヲ要スト認ム至急實現ヲ希望スルモノナリ（本件ハ目下關係當
局者ニ於テ設備ヲ進行中ニナリ）

開宮艦製造設備一覽表

設備品名	個數	生産能力	記	事
製麵機	一組	ニ五〇貫	手動式ニテ能率極メテ高シ	
附屬要具	一式		麵機並ニ舊製造用要具ヲ兼用ス	

六嗜好品製造設備

給糧艦ノ理想トシテ又現實ノ必要トシテ是等設備ヲ要スル既ニ述ベタル
通り然ルニ開宮ハ現在是等設備ヲ頗ル遺憾トスル所ナリ將來是
非共是等設備ヲ完備セシムルヲ希望スルモノナリ就中左記ハ設備
工事トシテモ間單且經費モ多額ヲ要セザルモノニ付至急實現ヲ希
望ス

スラムネ製造設備

夏季酷熱ノ際効力激ナル作業ニ從事スル艦隊乗員ハ清涼飲料ヲ渴望
スルコト切ナルモノナリ輕巡以上ニテハ相當進下備ヲ得ルノ外スラムネ製造
機ヲ備フルモノアリテ右ノ要求ニ應ジ得ハレト望ム速艦ノ如キ小艦艇

設備品名	個数	生産能力	記
瓦斯發生機	一		
硝子製除毒機	一		
瓦斯貯藏機	一		
混合機	一	六、〇〇〇本	

ニテリテ到底此ノ要求ヲ充スト能ハズ末員ノ慰安上頗ル遺憾ナルモノアリ今夏作業地碇泊中一駆逐艦乗員ノ間宮ニ來ル毎ニ空瓶ヲ携ヘ冷水ヲ持テ歸ルヲ屢々認メタル其ノ真相ヲ物語ルモノ云クハ是等乗艦乗員ノ窮狀ヲ救済スルニ間宮ニ於テラムネ等清涼飯料ヲ製造シ安價ニ供給スルヲ以テ種メテ機宜ニ適メル方策ト認ム艦隊附屬給糧艦ハ糧食品ノ供給ノミヤラス末員ノ慰安酌嗜好品ヲモ准テ備供給スルヲ以テ理想トスベシ否從來ノ實狀ヲ顧ミルトキ單ニ理想ニ止マ本館ノ如クハ現實ノ必要ヲ痛感ス忍ミ糧食品ハ末員ノ健康ヲ維持シ嗜好品ハ其モ氣ヲ鼓舞ス何トノ方モ欠クカラズ即チ本機ノ急速設備ヲ希望スル所以ナリ

而シテ之ガ所要設備ハ大体左記ノ通ニ可ナルヘシ(本件上甲中)

事

ラムネ詰口機	二		
電動機	一		二馬力、直流トス
水槽	二		
ラムネ座	六〇		
ラムネ瓶	五〇〇〇		

製造設備

本機設備、必要ナル趣旨ハ前項ト同様ナリ主トシテ准士官以上各室ノ要求ニ應スルモノトス今夏試験的ニ本機機ヲ備ヘテ製造シ各艦准士官以上各室ノ希望ニ應ジ供給シタルニ頗ル好評ヲ博シ其要求ニ應ジ兼スル盛況ヲ呈シタルコト屢々ナリ今夏、供給数量ハ八二〇〇人分（人分ヤ八分）ナリ斯ル状況ナルヲ以テ更ニ盤模ヲ大ニシ一般ニ供給シ得ル製造能力ヲ示シムルヲ要スト認ムコト本製造機ト共ニ急速設備ヲ示シトテ希望スルモノナリ而シテ是カ所要機ハ十二乃至十六コト止電動機附、アイスクリーム製造機一台及附属要具ミ可アリト思フ

第二章 給糧以外ノ事項

第一章 洗濯

問宮魂濯設備一覽表

設備區別	設備區名	全個數	記
洗上設備	洗滌機	一 台	上記外洗滌機洗滌機等
乾燥設備	絞 機	一 台	天日乾燥機等
仕上設備	鑼 其他備品類	一 式	仕上鑼天日乾燥機等
格納設備	洗滌物格納所	一	人更衣庫等

第二章 灌溉用材料及器具

一、告知予錄

行動中聯合艦隊各艦の官品ヲ無料ニ以テ開宮ニ於テ行フニ付キ之
カ所用材料ハ購買ノ代價ヲ軍需部長ヨリ直ニ買テ算ノ告知ヲ受ク本

教育事業費所要ニ該當スルモノトシテ告知セラルルモノ左表ノ如シ
 足備品直買予算告知額表

年度	下期分	二期度上期分	合計	記	事
聯合艦隊用	二三三〇〇〇	五三六〇〇〇	七六九〇〇〇		

右告知予算ヨリ購買シタル材料品左表ノ如シ
 聯合艦隊洗濯用材料品購買表

品名	数量	単價	代價	記	事
生 麵	一六九四〇個	九〇〇	一五二四六〇	官品洗濯用材料品	十月末残品ニ五貫
粉末石鹼	五〇箱	六六〇〇	三三〇〇〇〇	十月末残品	七箱半
カルキ	六箱	六五〇〇	三九〇〇〇	全品箱	(三箱)
苛性ソーダ	九箱	五四六六	四九二〇〇	全品箱	(三箱)
洗 滌 粉	一袋	二八〇	二八〇		
計			五七〇九四〇	十月末残品代價	七千八

第三節 洗濯ノ實施

開官ニ於ル洗濯官品ヲ主トスルニ作業ニ餘裕アル時ハ私品ヲモ行フモノナリ
 本年度ニ於ル官私品ノ洗濯数量を表ノ如シ
 一 官品洗濯数量並代價比較表

品名	数量	代價	洗濯	代價
腰掛國産枕	一五二個	五七 ^四 六 ^〇	五三 ^六 六 ^〇	二九 ^〇 〇
椅子履	一三四个	二〇 ^二 五 ^〇	一九 ^九 四 ^〇	二〇 ^〇
蒲團履	一九九個	三九 ^四 九 ^六	五〇 ^五 五 ^〇	二〇 ^〇
食卓履	一四五個	五〇 ^五 五 ^〇	五九 ^二 〇 ^〇	二〇 ^〇
七ルット	二五七個	四〇 ^四 五 ^〇	二九 ^〇 〇	二〇 ^〇
四立個	四立個	四〇 ^四 五 ^〇	二九 ^〇 〇	二〇 ^〇
襪	二九個	一〇 ^五 五 ^〇	二九 ^〇 〇	二〇 ^〇
襪	三個	一〇 ^五 五 ^〇	二九 ^〇 〇	二〇 ^〇
單長履	三五個	一〇 ^五 五 ^〇	二九 ^〇 〇	二〇 ^〇
患者帶	四個	一〇 ^五 五 ^〇	二九 ^〇 〇	二〇 ^〇
合計	五三三三	四三三	二九四二七六	

二 各艦別官品洗濯表

艦名	腰掛國産枕	椅子履	蒲團履	食卓履	七ルット	襪	襪	單長履	患者帶	代價	早算
長門	四〇個	九七個								三九 ^四 五 ^〇	三九 ^四 五 ^〇
伊勢	四九個	六八個	一六四個	二一〇個	一〇五個					九四 ^五 二 ^〇	九四 ^五 二 ^〇
日向		四〇個		九個	二〇個			一三〇個		一四 ^五 二 ^〇	一四 ^五 二 ^〇
金剛	七〇個	三三〇個	一三五個	一〇個	二八個	一〇個				八二 ^五 二 ^〇	八二 ^五 二 ^〇
鳳翔	六二個	五五個	一一七個	一四〇個	二二個			五個	二個	七八 ^二 〇 ^〇	七八 ^二 〇 ^〇
由良	二三個	三六個	七二個			三個				三三 ^六 〇 ^〇	三三 ^六 〇 ^〇

三二隊	二一隊	三〇隊	二八隊	二五隊	二六隊	一三隊	二七隊	六隊	二解隊 司令部	一解隊 司令部	尻夫	鶴見	迅鯨
六九	八九	七三	一七二	八六	一一一	二〇	二一七	二九		六五	一九		三八
四六	一三五	一三八	二四六	一一三	一一二	四一	五五	四〇		五七	二〇		一〇九
一〇六	一八一	一三七	一七六	一二八	一六〇	三八	一七九	六〇		一二三	三三		五六
	一〇		七四		五	三七							一八
八	四七	五	三五	三一	一七	三	二三	一〇	四			三	一三
一三	二二	二四	二一	四五	三一	五	二五	四	五七		一八	五	一九
							一一				一		四
						三							
	一												一六
													二
七〇	一四	八五	二一四	一一五	一二五	四七〇	一二七	四〇九	八九〇	六五五	二三五	三九〇	七三五
三〇一	四九三	五五二	四〇二	四三三	三三三	〇	三三	〇	一二	一四	三	一一	四六
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

五隊	二〇	四一	四七							二五五	二一〇〇
計	一二五二	一三三四	一八九九	一四五	二五七	四六一	二九	三三五	四	五〇四	

三. 私品洗濯数量並代價表

	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	合計	記事
数量	六八五	七五三	一、三二〇	三、一五〇	二、一六五	三、一五二	二、一三七	一三、三五二	聯合船政各 船乗員ノ
代價	一〇七 五	一、二五 五	五〇 五	一〇一 五	八 五	一三 四	一七 四	二二 四	私品

第四節 所見

艦隊ノ行動作業中、私品ノ洗濯物ヲ地方洗濯屋ニ出スコトハ碇泊
日数ノ關係等ニヨリ殆ンド困難ナルモノアリ只本年三月雇員傭人規則
ノ改正ニヨリ輕巡以上ニテハ洗濯吏ヲ傭ム得ルコトナリタルヲ以テ航海中
ト雖モ是等艦船ニテハ官私品ノ洗濯ヲ自艦ニ於テ為シ得ベシト雖モ
一人ノ洗濯吏ヲ以テシテハ其ノ多クヲ望ムヲ得ザルモノ又駆逐艦ノ如キ小艦ニ
テハ洗濯吏ノ傭入出来難キノミナラズ清水ノ關係モアリ洗濯ハ極メテ不
自由ナリ斯ノ如キ状況トニ於テ間宮ノ洗濯ハ各艦ニ對シ極メテ便利
且必要ノモノト云ハサルハワラス十四年七月作業開始洗濯数量逐次増加
シツテ然ルニ現在ノ洗濯設備ハ第一節ニ述ベタル如ク先ヅ完備ト認
ム

ノアルモノハ洗上設備ヨリノミニテ乾燥並仕上設備ハ備品類ヲ除キ全
ク仮設納ミニテ悉中仕上室ノ如キハ人夫意欲室ヲ其於利用シツ、アルタ
ノ狭隘ナル室内ニ於テ不潔室ニスル意欲用ノトモニ鑛焼用トシテ使用
スル結果室内ノ温度ハ甚カシク上昇シ夏季ノ如キ一ニ度ニ及ビ而モ作業
員ハ背ニ焼ケタルストロハヲ見セリ、仕事スル状況ニテ流汗淋漓其勞苦
ハ實ニ見ルニ思ヒザセリ、故テ作業ノ能率ヲ低下シ仕上成績ヲ不良
ナラシム夏季作業ノ最モ繁忙時期ニ於テ此ノ状態ハ頗ル遺憾トスル上處ナリ
既ニ艦隊ノ洗濯ヲ間宮ニ於テ實施セシメラル、以上能率ノ増進ト仕上成
績ノ向上ヲ實現シ得セリ、作業苦ヲ軽減シ得ル様出来得ル限り完
全ナル設備ノ實現ヲ希望スルモノナリ

註、仕上室ノ改善、乾燥室ノ設置、洗濯物格納所ノ設備方ニ廠ニ
請求シ之ヲ實施方進行中ナリ、但シ洗濯物格納所ハ人夫倉庫
内ニ適宜棚ヲ設ケ使用スルコトニ既ニ完成済ナリ

第二章 燃料其他ノ供給

第一節 燃料ノ供給

本年度中間宮補給用石炭並重油庫ヲ利用シ搭載シタル石炭及重
油ノ供給額左表ノ如シ

一、燃料供給表

[illegible]

第一節 清味及水

艦隊作業時、碇泊若くは巡航航海等長き二及び三日上り清水、受込因
難に場合製造艦、如く小艇、清水、欠乏ヲ果シ間富ニ對シ之ヲ供給方
申出頻出ノ状態ニ付、間富ニ六張來得ル限リ之ニ應ジ便宜ヲ計
リタル間富、清水既消費量一三五三噸ニ過キ不即ニ速測機並補給均需
ノ製造等所謂水作業ノ事ニ加テ製造隊亦莫ク入浴スアリテ毎月消費
量は多ク、合船ノ中トモ對シ充分ノ供給ヲ爲ス難サリテ遺憾トス清
水庫増設ハ各種ノ方面ヨリ見テ急務ト認ム

間官ニ於テハ米ハ全歳ノ余力ヲ利用シ、副産品ノ至至ニテアル、之ニテ其
製衣造靴等ハ六カ月至七時間ニ二カ敷（一敷ノ重量三貫五匁）ナリ、就役以來今
毎季至三カ月ニ毎季行動中ニ製履船掃海艇等ヲ全蔵庫ナキ小艦ニ供給
シ、兼テ飲料、石炭、全蔵庫ニシテ量丈ノ積積ヲ得ニ米ナリ本年一度
八五六月頃迄蔵、今年度竟分ナリナリ然テ出来得ル限リ量多製造シ

清
水
法
界
表

二
冰
經
以
妻

第三章 入 其 地

第一節

間宮ノ予備浴室ハ浴槽ニ個ヲ備ヘ同二三ノ人ヲ入浴セシムコトヲ得ルナリ
艦隊作業地、碇泊長キニ及ハズ入湯上陸ナク駛逐隊掃海隊等清水
ヲ自由從テ入浴ノ機ハ會少ク連日ノ作業場ニ夢心地ニ悪キ是等艦船
乗員ニ對シ間宮ノ此入浴設備ヲ提供スルコトハ彼等ノ心身ヲ清新シ

翌日ノ作業ニ没刺タル元氣ヲ回復セシムルニ努メテ力ナリ延ヒテ作業能率
向上ノ効果ヲ齎ラヌハ予ノ疑ハ不固糧食品運送兼商業トシテ、供給ヲ
慈善事業ト見ルハ各港社会事業ニ該當ス間官ハ艦隊ニ對シ此ノ
三大事業ヲ經營シツナリ以上一週言ナリト虽玩味セハ間官當事者、
艦隊乗員ニ對スル具體ヲ物語ルベシ本年度間官入港延人員數ハ左
表ノ通ニテ昨年度ハ八七六名ニ比シ少キモ之ヲ移動戦技ヲ實施セラレ
ル本年度艦隊行動ノ關係ニ因ルモノト云フベシ

一、入。港員數表

	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	合計	記事
延人員	三三五九	七五八	〇	〇	一四五一	一八七一	一二四	一六一七	三三	四七六二	

第二節 人員及物件ノ輸送並便乗

平時、艦隊給糧艦トシテノ任務ノ遂行ニ充テタル間官ノ船腹トシテ未ダ
船艙倉庫ノ中迄所トシテ残ササルノ少カズ從テ艦隊ノ行動ニ從テ
局地間並一定期間ノ物件搭載輸送並人員ノ便乗ハ主タル諸糧任務ノ
遂行ニ甚カシク妨ケトナサザル限リニ於テ可能ナリ故ニ是等ノ利用ニ善處ス
ルニモ間官ノ全能力發揮スル一端ニ外ヌ本年年度ニ於テハ是等目的ノ達成
ニ先ツ特種標的及飛行機搭載ノ設備ヲ行ヒ軍港ヨリ作業地ニ作

業地ヨリ軍港ヘ、往復航路及大演習其他ニ於テ人員、便乗物件、搭載輸送ヲ行ヒタリ其ノ主ナルモノヲ示ス次表ノ如シ

一、人員、便乗輸送表

種別	員數	便乗期間及行先	記	事
戰技委員及委員	准士官七二名	自三月廿五日 至七月二十六日	大演習第一期海陸聯合演習ニ際シ	
並全視察見學者	下士官七〇名	自三月廿五日 至七月二十六日	大演習第一期海陸聯合演習ニ際シ	
陸軍部隊	將校一〇四名	自三月廿一日 至三月廿二日	大演習第一期海陸聯合演習ニ際シ	
觀艦式予行拝觀者	一、二〇〇名	十月二十九日	橫濱沖	
觀艦式拝觀者	一、二〇〇名	十月三十日	石	全
合計	三九六九名			

二、物件、搭載輸送表

品名	數量	輸送地若ハ搭載期間	記	事
特種標的	三個	佐伯灣ヨリ	戰技ニ使用	分
航路標識浮標	三組	石	奄美大島ニ於テ使用	分

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

0222

附

録

附錄

- 一、聯合艦隊法 聯合艦隊補給用糧食品準備並授受手續
- 二、聯合艦隊第五號 七准士官以上各室用糧食品取扱手續
- 三、同 第五號 三特務艦間宮洗濯物取扱要領
- 四、間宮氷配給内規
- 五、昭和元年度間宮所要經費調表
- 六、昭和元年度特務艦間宮行動及主要作業一覽表

聯合艦隊法令第一二號

昭和二年四月七日旅順旗艦長門

聯合艦隊司令長官 加藤 寛治

聯合艦隊補給用糧食品準備並授受手續左記ノ通定ム

聯合艦隊補給用糧食品準備並授受手續

第一條 聯合艦隊附屬給糧艦(以下單ニ給糧艦ト称ス)ニ於

テ補給用糧食品(以下單ニ糧食品ト称ス)ノ準備並ニ授受ハ本手續ニ據ルモノトス

第二條 艦隊行動中ニ於ケル給糧艦ノ糧食品供給範圍ハ其都度之ヲ定メ給糧艦及各艦(隊)以下單ニ各艦ト称スニ通達ス

第三條 各艦ハ前條ノ通達ニ基キ糧食品受込高調書(様式第一)ヲ作製シ指示セラレタル期日迄ニ給糧艦ニ送付スヘシ

第四條 給糧艦ハ前條ノ調書ニ基キ所要糧食品ヲ搭載準備シ之ヲ聯合艦隊司令部ニ報告スルト共ニ關係各艦ニ通知スヘシ

第五條 糧食品請求ハ左記ニ依ル

一、請求書(様式第二)ハ前々日軍牛一迄ニ給糧艦ニ送付、

二、毎日受込ヲ要スル場合、請求書(様式第三)ハ一週艦分

ヲ記載シ前週中ニ給糧艦運送係タルコト

三、駆逐艦ニ在リテハ駆逐隊主計長之ヲ取纏メ請求書(様式

第四)ヲ作製シ給糧艦ニ送付スルコト

四、各艦ハ第三條ニ依リ豫報セシ受込高調書ノ糧食品ノ全

部ヲ該行動中ニ受込ムコト但シ行動ノ変更其ノ他已ム

ヲ得サル事情ニ因リ受込糧ニ異動ヲ生スル場合ハ遲滞ナ

ク給糧艦ニ訂正通知ヲ要ス

五、一時ニ多量ノ糧食品ヲ受込ム場合ハ豫メ打合セ、為メ

前々日迄ニ係員ヲ給糧艦ニ派遣スルコト

六、冷蔵車ノ設備アル艦ニ在リテハ事情已ムヲ得サル場合

ノ外数日分ヲ取り纏メ搭載シ毎日受込ムコト例トス

七、生麵配給日割ハ生産数量ノ關係上給糧艦主計

長之ヲ定メ關係各艦主計長ニ通知スルコト例トス

第六條 國庫ニ於テ各艦ニ多量ノ糧食品ヲ供給スル場合ニ於

六、給糧艦ハ豫メ供給日割概定表（第七條ノ授受時刻ト共ニ）ヲ作製シ聯合艦隊司令部ニ送付スヘシ
聯合艦隊司令部ハ前項ノ概定表ニ基キ糧食品ノ搭載日割ヲ定メ給糧艦及各艦ニ通知ス

第七條 糧食品授受ノ時限ハ給糧艦ノ定ムル所ニヨル
給糧艦ハ必要ノ都度前項ノ時限ヲ定メ關係各艦ニ通知スヘシ

第八條 糧食品ノ授受ハ給糧艦ニ於テ行ヒ各艦ヨリ受取船ヲ派遣スルモノトス但シ駆逐艦掃海艇若クハ作業艦等ハ受取船ヲ派遣シ難キ艦ニ對シテハ給糧艦ノ配給艇ヲ以テ派遣授受スルヲ例トス
給糧艦ハ配給艇ニ余力アル限り前項ノ規定ニ拘ラス糧食品ヲ派遣授受スルモノトス
受給艦艇ハ給糧艦配給艇ヨリ糧食品ヲ何揚スルニ當リ迅速ニ取扱ヒ配給艇ヲ速ニ返艦セシムルフトニ努ムヘシ

第九條 給糧艦ハ配給艇ニ故障アルカ又ハ配給力ニ不足スル場合ハ巡戰以上ノ艦ニ汽動艇ノ派遣ヲ請求スルコト

ヲ得ヘシ

巡戦以上ノ艦ハ前項ニヨリ請求ヲ受ケタルトキハ艦ノ作業上特ニ支障ナキ限り之ニ應スヘシ

第十條 糧食品ノ授受運搬ニ関シテハ左記事項ニ注意スヘシ

- 一、糧食品受取船ニハ適當ナル糧食覆フ準備シ生麴、麴、豆腐及葯蕪等ヲ受込ム場合ニハ夫々適當ナル客器ヲ給糧艦ニ送付スルコト
- 二、一時ニ多量ノ糧食品ヲ受込ム場合ハ受取船ト共ニ相當員數ノ糧食搭載員ヲ給糧艦ニ派遣スルコト
- 三、糧食品ノ容器及包装用物件ハ使用後萬分ノ得サル場合ハ外投棄スルコトヲ給糧艦ニ返却スルコト

四、冷凍糧食品ノ授受運搬格納等ノ作業ハ迅速ニ行ヒ品質低下ノ防止ニ努ムルコト

第十一條 給糧艦ヨリ供給セシ糧食品ノ整理ハ大正十四年五月十四日官房第一七〇一號ニ依リ海軍給糧令施行細則第四百十七條ヲ準用スルモノトス

第十二條 各艦主計長ハ生糧品請求表(大正七年十一月一日
 日經糧第一七二號糧食品授受手續第二號書式
 ノミ)及貯糧品請求簿(同上第一號書式)ヲ設備シ
 糧食品授受ノ事實ヲ記入スヘシ
 第十三條 各艦主計長ハ毎主曜日(月末ノ週ニ在リテハ其ノ末
 日)其ノ週間ニ於ケル給糧艦ヨリノ受込高(各品種毎
 ニ計上ス)ニ對シテ請求票、領收票ヲ給糧艦主計長
 ニ送付スヘシ尚所管軍需部會計官更ニ對スル
 報告用トシテ更ニ領收票一通ヲ添付スヘシ
 第十四條 給糧艦主計長ハ糧食品ヲ直接購買シタルト
 キハ大正八年六月第一艦隊法令第三三號ニ依ル外
 糧食品直接購買成績表(様式第五)ヲ作製シ聯
 合艦隊主計長ニ提出スヘシ

(終)

様式第一 (用紙適宜美濃型)

自 月 日
至 月 日

艦隊補給用糧食品受入見込高調書 軍艦、

品名	数量	食料要数量	受入見込	場所	記	事
生麺麴	貫	貫				
生牛肉						
生臭肉						
焼臭肉						
生野菜						
第二種漬物						
味噌 白赤						
、 、 、 、						
、 、 、 、						
計						

0229

様式第二(用紙適宜美濃型)

年 月 日

生(野)糧品請求書

軍艦何々

受込日時	品名	数量	記 事
			品種ハ給糧艦ニ於テ記 入ス

備考 行動作業ノ都合ニ依リ本書ヲ送付スル暇ナキ時ハ先ツ電報
若クハ信號ヲ以テ請求スルニ差支ナシ

様式第三(用紙適宜美濃型)

年 月 日

生(鮮)糧品請求書

軍艦 何々

品名	13日 (日)	14日 (月)	15日 (火)	16日 (水)	17日 (木)	18日 (金)	19日 (土)	合計
骨付生牛肉								
生野菜								
、 、 、								
、 、 、								

様式第四(用紙適宜)

年 月 日

生(鮮)糧品請求書

第 一 駆逐隊

受入日 及 曜	品名	骨付生牛肉	生野菜	、 、 、	、 、 、	記 事
------------	----	-------	-----	-------	-------	-----

0231

0233

樣式第五(用紙適宜美濃型)

補給生糧品直接購買成交主頁表 () 月 日 於 ()

事	記	實	價	代	價	單	量	數	名	號
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

[illegible]

六、一、

備考

ノ託事欄ニ納者住所氏名其他必要事項記入
ノ
二、單價代價^ノ欄ニ其ノ傍當該購入地ニ於ル年度契約單
價代價ヲ朱書スルコト

網入成績

[illegible]

聯合艦隊第五號

昭和二年四月七日芝罘長門

聯合艦隊參謀長

各戰隊司令官
各艦長司令官

當隊當分ノ間特務艦間官ヨリ受込ノ准士官以上各室
用糧食品ノ授受ハ左記准士官以上各室用糧食品取
扱手續ニヨリ實施候條左様御了承相成度
右通知ス

追テ各室食料ノ不足ヲ訴ヘル、此ノ際努メテ間
官ヲ利用セラル、精致度特ニ甲一様候

准士官以上各室用糧食品取扱手續

第一條

特務艦間官ヨリ補給、准士官以上各室(以下單

ニ各室ト稱ス)用糧食品、準備請求並授受ハ本手
續ニ據ル

第二條

各室ニ供給スベキ糧食品ハ原則トシテ補給用

糧食品ト全一種度ノモノトス但シ各室ニ於テ特種ノ
 品種又ハ品質ノ糧食品ヲ要スル場合ハ聯合艦隊補
 給用糧食品準備並授受手續（以下單ニ授受
 手續ト稱ス）第三條ニ準シ間宮ニ豫報スルヲ要ス
 第三條 各室ニ於テ間宮ヨリ糧食品ヲ受込マントスルト
 キハ授受手續第五條ニ準シ請求書ヲ前々日年
 前中ニ間宮ニ送付スルモノトス但シ至急ヲ要スルトキ
 ハ當日信號ニ準シ依リ請求スルフトヲ得
 第四條 前條糧食品ニ授受ハ間宮ニ於テ授受手續
 第七條ノ期限ニ準シ例トス但シ全第續第八條
 ニ依リ兵食配給ノ便アル場合ニ限り間宮ヨリ送達
 授受スルモノトス
 第五條 間宮主計長ハ毎月二十日締切ヲ以テ各室ニ
 充用セシ糧食品ノ價格ヲ計算シ代金請求書
 ヲ受給艦主計長ニ送付スヘシ各艦（隊）主計長
 ハ其ノ月末日迄ニ右代金ヲ取纏メ間宮主計
 長ニ送付スヘシ

聯合艦隊第五號ノ一三
昭和二年五月二十八日

横須賀長門

第二艦隊司令官 聯合艦隊主計長
各戰隊司令官 御中
各艦 (隊)

本年度(會計)特務艦間宮ニ於テ取扱官品
洗濯等ニ関シテハ左記要領ニ依ルコト、御承知相
成度
右通知ス

特務艦間宮記

一、間宮ニ於テ

無料ヲ以テ各艦、官品洗濯ニ應スル
取扱要領

二、前項ノ金額、

計算ハ別表第二ノ單價表ニ
依ル

三官品洗濯ヲ請求セシトスル時ハ海軍兵備品會計
 規程第六號書式ノ請求領収票ニ現品ヲ添ヘ
 各艦(隊)主計長ヨリ間宮主計長宛送付スル
 モノトス
 四各艦ハ艦務部品經理規程第六號書式ニ準
 シ洗濯豫算明細簿ヲ設備シ全規程第二十二
 條ニ準シモノトス
 五間宮ハ余カアル限リ別表第三ノ單價表ニヨリ私
 品ノ洗濯(各艦隊)毎ニ取經メニ應スルモノトス
 (終)

聯合艦隊第五號、一三號、別表第一
昭和二年度前期(十月末迄)聯合艦隊沈没豫算配賦表

艦隊名		(係)		名		配賦額	
第一艦隊	第一艦隊司令部	間宮鳳翔	赤城	壹	〇	〇	〇〇〇
	鬼怒	河武隈	球磨	龍田	由良	常磐	
	長門	陸奥	伊勢	日向	六駆		
	第三戰隊第一水雷戰隊司令部	潜水戰隊司令部	八	〇	〇	〇	
	三駆	二五駆	二六駆	二七駆	〇	〇	
第二艦隊	二八駆	迅鯨(潜水隊司令部)	六	〇	〇	〇	〇〇〇
	第二艦隊司令部	加古	古鷹	神通	那珂		
	夕張	二二駆	觀見	能登呂	八	〇	
第三艦隊	第五戰隊第一水雷戰隊司令部	第二潜水戰隊司令部	五	〇	〇	〇	〇〇〇

艦 隊		
金剛、比叻、	五駆、二九駆、三〇駆	長鯨（潜水隊ヲ含ム）
壹	壹	貳五
〇	〇	〇
〇	〇	〇
〇	〇	〇

聯合艦隊第五號ノ一三別表第二

間宮官邸洗濯豫算差引單價表
 (昭和三年度海軍總務部
 契約單價約三分二)

品名	呼稱	單價	品名	呼稱	單價
食卓覆	個	〇八〇	枕覆	個	〇一五
同 中	〃	〇六〇	窓拭巾乙	〃	〇三〇
同 小	〃	〇四〇	同 天竺木綿製	〃	〇二〇
腰拭蒲団覆	〃	〇五〇	暖簾巾乙	〃	〇六〇
同 中	〃	〇三五	半暖簾巾乙	〃	〇三五
安樂椅子覆	〃	〇三五	同 白巾	〃	〇一五
椅子覆	〃	〇二〇	同 覆巾乙	〃	〇三五
同 小	〃	〇一五	同 巾	〃	〇一〇
セルベエツト	〃	〇一〇	蒲団覆	〃	〇三五

毛織潜水衣上下				組		〇七〇	
患者被服部							
品名	名稱	單	價	品名	名稱	單	價
軍長白衣	個		〇三五	毛布覆	個		〇四〇
軍用覆	〇三五	帶			〇一〇		〇一〇
綿入長白衣	〇八〇	襪			〇一五		
綿用覆	〇八〇	枕			〇一〇		
毛布赤	〇四五	毛布白			〇六〇		
股	〇一五						

私品洗濯物單價表(地方單價約二分)

[illegible]

カ ラ	ワイ シャツ	カラ (夕ナル)	カ ラス (袖体)	ム ネ (エウ体)	士官用 事業服
組	組	組	組	組	組
〇 三〇	一 五〇	〇 六〇	〇 六〇	一 五〇	二 〇〇
ム ネ (イウ体)	子 ミ ウ キ	ハ ン カ ケ	ク オ ル	靴 下	サ ル マ タ
組	組	組	組	組	組
〇 六〇	一 〇〇	〇 二〇	〇 五〇	〇 二〇	〇 四〇

(線)

間宮氷供給規程

一本艦ニテ製シタル氷ノ供給ハ機関長其ノ一般ヲ掌
リ尚他艦用ニ對シテハ機関長本艦用ニアリテハ機
関分隊長之ヲ分掌シ掌機長ハ一般補佐ニ當ル
モノトス

二掌機長ハ氷現量等ヲ調製シ置キ補機部
員ヲシテ毎日交機及摘要等必要事項ヲ
記註セシメ置キモノトス

三本艦内供給内規ヲ互ニ通り定ム
不毎日供給標準

- 士官室 (艦長室ヲ含ム)
- 准士官室
- 兵員室
- 機関科當直

四艦内臨時請求ニ對シテハ傳票ニ機関科分隊長
長ノ認印ヲ受クルモノトス
五供給時間ハ午前午後三時トス但し病人

四、他艦用ニ對スル供給用規ヲ左ノ通り定ム
(毎月供給標準)
 尚收況ニ依リ多少變更スルコトナルヘシ
 艦長ヨリ請在ノ場合ハ此ノ限リニアラズ

飛 龍 艦 壹
 潛 水 艦 壹
 輕 巡 司 令 部 壹
 陸 軍 御 來 航 輕 巡 壹

只供給期間中本艦艦門附近ニ別表記入ノ黑板ヲ
 備付ケ置キ衛兵伍長ハ供給ヲ終リタル艦名ヲ
 マークシ置キモトス

(補機部) 三、同種黑板ヲ備ヘ付ケ置キ可トス

ハ供給用米箱ヲ各艦ヘ送り供給シ米受取ノ際ハ同箱
 フタヲ持タセシムルモノトス

ニ供給標準外ノ臨時請求ニ對シテハ衛兵伍長ノ所
 ニ備付ケタル米請求票ニ必要事項記入シ上機関長
 ニ請求セシムルモノトス

五、糧食配給ノ艦三八其ノ際米ヲ配給スルモノトス
 艦隊後期行動開始前ヨリ出來得ル限リ製米シ米

0247

庫ニ貯藏シ置クモ
トス
六氷配給機開ク
至自
九月
二旬
トス

(終)

0248

昭和元年度
宮所要經費
調査表

一現金支出高
(1) 人事費

項目	人員	俸給	航海加俸	食料	特別加俸	賞典	計	平均	記事
佐尉官	九	三九〇〇〇	三三三三三	三九五五五		三三三三三	三三三三三	三三三三三	
特務官	九	三三三三三	二八四八〇	二七三三五		二二二二二	二二二二二	二二二二二	
下士官	四一	三三三三三	三三三三三		九二五二五	三三三三三	三三三三三	三三三三三	
兵	一八〇	三三三三三	三三三三三		四八六九七	三三三三三	三三三三三	三三三三三	
傭人	二〇	三三三三三	四六八〇		二四〇〇〇	三三三三三	三三三三三	三三三三三	
旅費									
労働手当									
武装手当									
計									

[illegible]

三、燃料費

[illegible]

二
兵
器
費

[illegible]

主計長	別	備品	消耗品	計
石術長	九五	二四	三三	三三
水雷長		二二	二二	二二
航海長	九五	七六	五九	一七
通信長				五九
運用長	七三	八一	八〇	一八
燃料部	二四	二四	三三	三三
船匠部	三七	四四	四八	九一
機関長	三三	四四	四八	九一
主計長	八五	八五	八五	二五
計				

五、被服費

一三九八八七九〇

六、糧食費（兵食費）

給與令第七條食料	同上第七條食料	計	記
四、五九九、六〇〇	一、二〇〇、七五〇	四、九八〇、三五〇	

七、治療費

五四五、〇〇〇

八、事務費

入渠費

六、三九四、三三二

九、	船体修理費	三、五二八、八六八
其、	機関部修理費	一、〇七六、三一三
他、	ナシ	
總計	金四二〇、三三三、一八〇	四九、〇〇一、五三三

月日	行動及	主要作業
自一 至四	吳泊	整理、林義、船修兵器、機關、修理、補給用糧食品、準備
二五	吳泰	
自三 至六	由宇沖	才一才二水雷發射、才一搭水、各機二種食品補給、並生糧品、互買
自七 至十	由宇沖	
自十一 至十四	三田尻沖	才一才二水雷發射、才一搭水、各機二種食品補給、並生糧品、互買
自十五 至十八	三田尻沖	
自十九 至二十二	三田尻沖	
自二十三 至二十六	由宇沖	才一才二水雷發射、才一搭水、各機二種食品補給、並生糧品、互買
自二十七 至三十	由宇沖	
自三十一 至三月	由宇沖	